

脱原発 メルケル首相の雄弁

無職

(大分県 84)

ドイツのメルケル首相が来日し安倍晋三首相と会談した。両国の将来へよき実を結んでほしいと祈るような思いである。

4年前の東京電力福島第一原発事故を受け、メルケル首相は「脱原発」の方向へと踏み出した。2022年までに全ての原発を停止することを決め、再生可能エネルギーを中心とした構造への転換を目指すという。しかし、首脳会談では、原発政策についての議論はなかったようだ。メルケル首相は訪日直前、「日本も共にこの道を進むべきだ」との考えを示してい

るのに、なぜ踏み込んだ話し合いがなかったのか。大変残念だ。

だが、メルケル首相は9日の講演で「私が考えを変えたのは、やはり福島の事故でした。日本という高度な技術水準を持つ国で起きたからです」などと、自らの脱原発政策を雄弁に語ったようだ。安倍首相はどう受け止めるのか。

広島、長崎への原爆投下と、原発事故という悲劇に見舞われた日本。その痛みを肌身で知り、最大の発言権を持つはずなのに、原発再稼働が政権の既定路線だ。

日本もドイツにならって、世界で脱原発推進の先頭に立つ「一歩」を踏み出してほしい。